海外鶏卵・鶏卵加工品情報

2025 年 12 月 8 日

【欧州】

1. 大手養鶏企業を中心に増羽の意欲はあるものの採卵鶏羽数は EU 委員会によって管理規制されている為、想定している程増羽が進まず依然として鶏卵生産量は低調です。
2. 比較的安価で良質な蛋白源としての鶏卵は食肉代替品としての地位を確保できておりテーブルエッグの需要は継続して堅調に推移しています。
3. 鶏卵価格は再び上昇傾向にありピーク時の 3 月中旬から下旬の相場を上回り年初来の最高値となっています。今後クリスマスシーズンを迎えるにあたり最需要期となるため更なる価格上昇が見込まれます。
4. 2024 年 12 月 7 日～2025 年 3 月 7 日までの期間で 31 ヶ国、743 件(家禽は 239 件)の鳥インフルエンザが確認されました。鶏インフルエンザが飼い猫や野生肉食動物への感染も確認されています。
5. 2025 年 9 月以降、クロアチアやセルビアなどのバルカン諸国、エストニア、ギリシャ、トルコ以外の欧州諸国では鳥インフルエンザが確認されています。直近では 11 月 21 日から 22 日にベルギーのフランドル地方の養鶏場で鳥インフルエンザが確認され 257,350 羽が殺処分されました。
6. 全卵及び卵黄の需要は依然として堅調に推移しています。特に卵黄の需要が好調で供給が需要に追い付いていない状況が続いています。EU 域内の生産量だけでは需要に対応できず中国やインドからの卵黄粉末の輸入が増加しています。
7. 旺盛な卵黄需要によるところの異常に高い卵黄価格の影響で卵白の価格は鶏卵価格からみると非常に安い状況が続いています。直近で卵白需要が増える可能性は低く卵白安、色物(卵黄や全卵)高の状況は当面変わらないと思料します。

【米国】

1. 大手鶏卵業者による増羽の動きは強いものの鶏インフルエンザ発生時期でもあり想定していたほどの採卵鶏羽数の増加は見られません。2022 年から 2025 年 5 月までの約 3 年半の間で鶏インフルエンザにより 1 億 6,500 万羽以上の採卵鶏が殺処分されたことが最大の原因と言えます。
2. USDA の発表では 2025 年 9 月 7 日時点で採卵鶏成鶏羽数は 2 億 9.350 万羽となっています。 また USDA は 12 月上旬の成鶏羽数が 3 億 1 千万羽に到達すると発表していました。この数値は鶏インフルエンザが蔓延する以前の 2021 年の平均成鶏羽数の 3 億 2,600 万羽に比べて約 95%の水準で未だ充分な羽数とは言い難い状況が続いています。
3. EU と同様、米国でもアニマルウェルフェア(動物愛護)の動きが活発になってきており飼育形態も従来のケージ飼養からケージフリー飼養(平飼い・放し飼い)への移行が進んでいます。現在は採卵鶏飼養の 45%近くがケージフリーとなっています。この動きは今後も続くと予想され、カリフォルニア州やネバダ州など 9 州ではケージフリー飼養以外の鶏卵の販売の禁止若しくは 2026 年までに禁止と打ち出しています。業界関係者の間では 2030 年には全米の採卵鶏飼養の 57%以上がケージフリーになると予想しています。

J Sights Corporation
5-21-4-208 Nishi Gotanda
Shinagawa City, Tokyo
JAPAN 141-0031
Tel / Fax : + 81–3-3490-3038
E-mail : msaito@jsights.com

4. 世界最大の養鶏業者である Cal-Maine Foods や米国第 2 位(世界第 3 位)の Rose Acre Farms、Versova Holdings、Hillandale Farms 等の大手養鶏業者はフリーレンジ対応の為に多くの投資を行っています。
5. 10 月から卵の需要期に入り殻付き卵価格はじりじり上昇していますが、今年の前半(2 月中旬から 3 月中旬)に比べて 11 末の殻付き卵価格は 1/6 程度に下がっており量販店での価格も割安感が出てきたことや良質蛋白源としての評価も上がっていることもあり家計内消費は好調に推移しています。
6. 米国の粉末卵の相場も今年の春先に比べて卵白粉末と全卵粉末で 4 割程度、卵黄粉末で 5 割程度まで下落していますが、春先の価格水準が異常過ぎたため安いという感覚はありません。粉末卵メーカーも積極的に粉卵を製造する動きが見られない状況です。
7. 今後、鶏インフルエンザ発生時期のピークに向かっていきますが米国に限らず世界中で鶏インフルエンザ対策の為ワクチンを使うことが議論されています。米国、EU や日本も含め今後の世界の動きに注視する必要があります。
8. 飼料穀物の一大生産地でもありエネルギーコストも安い米国は世界でも養鶏に関して類まれな好条件を有する米国の養鶏業の復活が望まれます。

【その他】

1. 中国の養鶏業は米国型の大規模化が急激に進んでおり養鶏場と加工場が同一敷地内にあるインラインブレーキングも増えています。日本向けの全卵粉末や卵黄粉末の輸出が増えており製パン業界を中心に使用されています。品不足、異常な価格の高騰に苦しむ EU では卵黄粉末を中心に中国からの鶏卵・鶏卵加工品の輸入を拡大しています。
   対日輸出に関しては現在の両国間の政治的なひずみや EU 向けより安価で契約しようとする日本との取引において腰が引ける可能性も危惧されます。
2. インドは殻付き卵の価格が上がり続けていますが、EU や米国に比べて未だ安く製品価格も安い水準にあります。新たに割卵機や乾燥機を購入し粉卵生産を開始した養鶏場も増えていますが未だ品質的に不安定な状況です。鶏卵加工品に関しては今のところ欧米品に比べて価格競争力がありますが、今後インド国内の鶏卵価格の上昇、鶏卵需要の増加、海外からの引き合いの増加等価格上昇となる要因が存在することは否めません。

輸入品を扱う際は迅速で正確な情報と的確な状況判断が不可欠です。弊社は世界に張り巡らしたネットワークで迅速且つ正確な情報を提供しております。鶏卵加工品に限らず各種たんぱく、乳製品・畜肉加工品等にも精通しており、ご不明な点やお知りになりたい事があればいつでもご連絡ください。

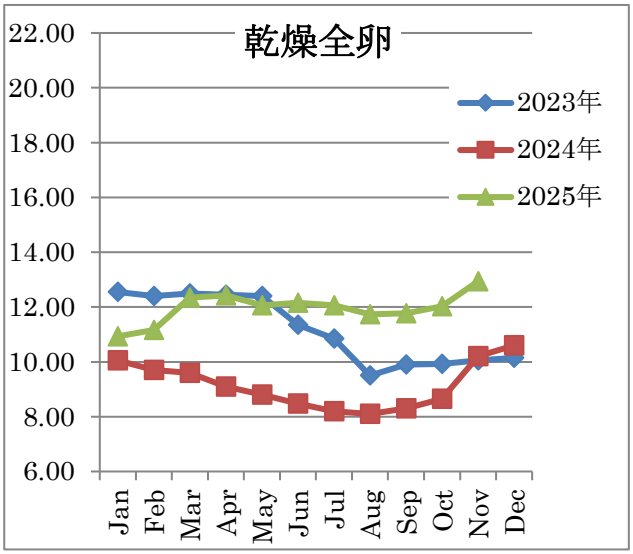
お問い合わせフォーム

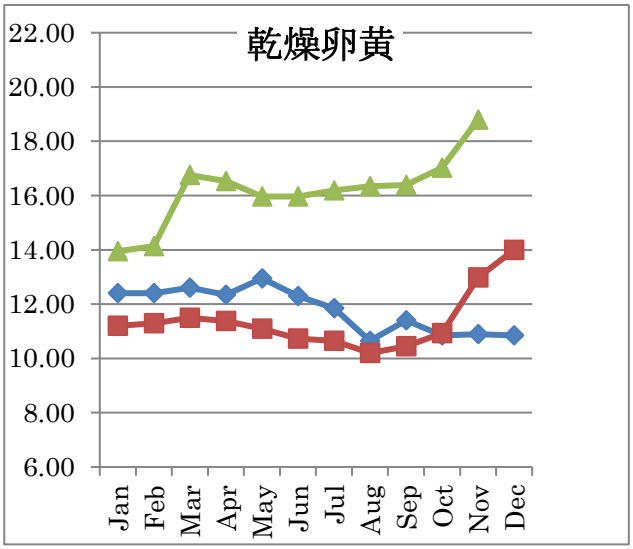
次頁では EU、USA の全卵価格相場推移をグラフでご紹介しています。

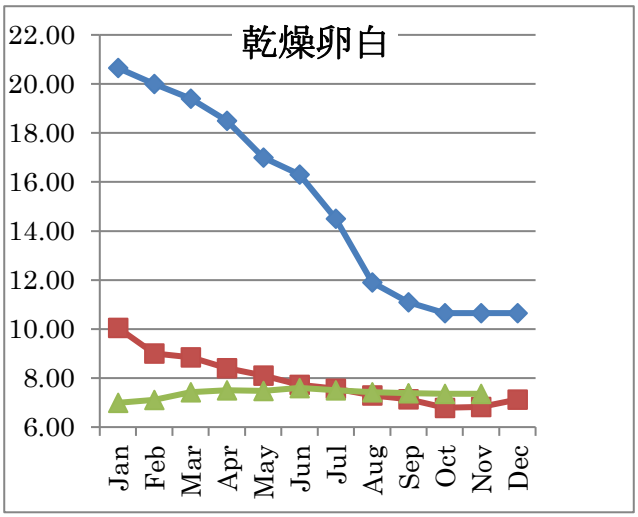
J Sights Corporation
5-21-4-208 Nishi Gotanda
Shinagawa City, Tokyo
JAPAN 141-0031
Tel / Fax : + 81–3-3490-3038
E-mail : msaito@jsights.com

J Sights Corporation

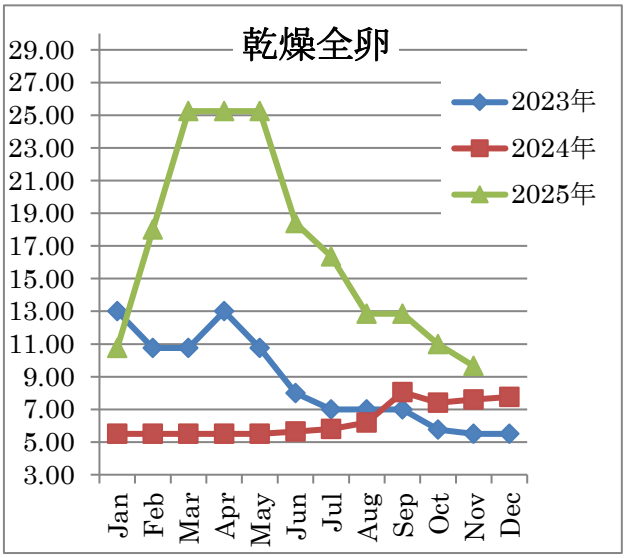
EU 相場推移（€/kg）

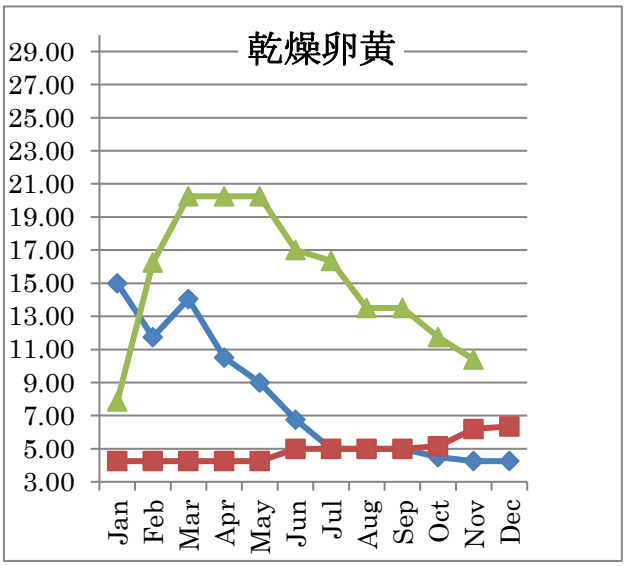


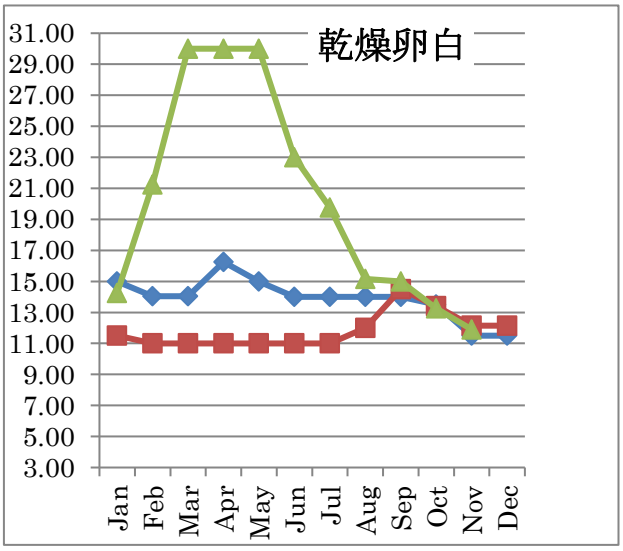




USA 相場推移（USD/lb）







* 各月の月初の "Urner Barry" 価格

* 製造工場渡し価格(輸送費、輸入諸費用は含まず)

J Sights Corporation

5-21-4-208 Nishi Gotanda
Shinagawa City, Tokyo
JAPAN 141-0031
Tel / Fax : + 81-3-3490-3038
E-mail : msaito@jsights.com